

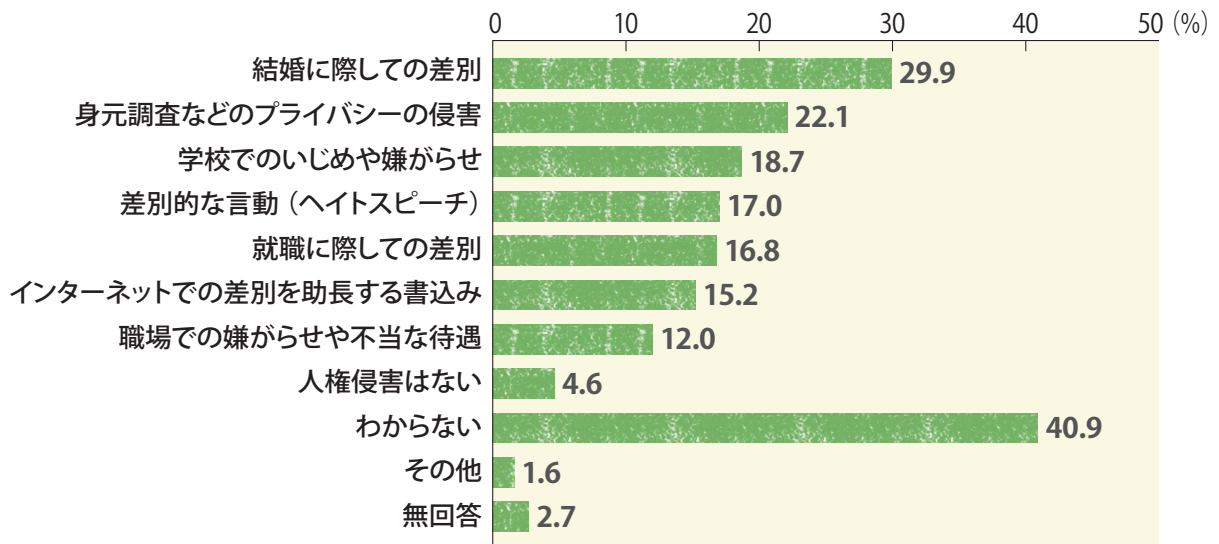
# なぜ、いま同和問題なのか



## 今も残る差別意識

これまでに記したように、長年にわたる国や地方公共団体などによる様々な取り組みの結果、同和地区・被差別部落と他の地域との生活実態面での格差は、相当程度解消されました。しかし、最近でも、同和地区・被差別部落出身者を誹謗・中傷する等の差別は依然としてあり、差別意識が解消されたとは言えません。

### ● 部落差別がどのような形で現れていると思いますか



出典：広島県政世論調査（平成29年度）

広島県の調査では、「結婚に際しての差別」と回答した割合が29.9%と最も高く、次いで、「身元調査などのプライバシーの侵害」22.1%、「学校でのいじめや嫌がらせ」18.7%となっています。一方、「わからない」との回答も40.9%ありました。なお「わからない」と回答した方の年代別では20歳代が56.0%と最も高くなっています。

### ● 結婚や就職の差別

人生の大きな出来事である結婚や就職に直面したとき、特定の地域の出身ということ等で差別を受けることがあります。

誰にでも故郷があり、親しい人がいて、誇りにも感じるのが故郷です。その故郷を人に言えない、故郷が分かると結婚や就職で差別を受けるということはあってはなりません。しかし、結婚する相手が同和地区・被差別部落出身者であるか否かを調べるために、職務上他人の戸籍謄本などを入手することができる者に依頼するなど、制度を悪用して、不正にその人の戸籍謄本を入手し、その結果、同和地区・被差別部落出身者であることを理由に、本人の人柄や当事者の気持ちとは無関係に、結婚の断念を迫ったといった事件も起きています。

就職差別も同様です。1975（昭和50）年頃、全国の同和地区・被差別部落の所在地などを記載した「部落地名総鑑」と称する冊子が発行され、相当数の企業が購入していたことが発覚しました。冊子はすぐに回収され処分されましたが、掲載されていた「情報」は企業での採否決定に悪用されるなど就職差別につながるものでした。就職差別は、生活にかかわる問題であり、場合によっては命をも奪いかねない問題でもあることを私たち一人ひとりが十分に認識する必要があります。

## インターネット上の差別

スマートフォンが普及し、毎日の生活に不可欠な存在となり、SNSでは情報があっという間に拡散するようになりました。インターネット上では、同和地区・被差別部落の所在を示すとする書き込みが掲示されるなど差別を助長する書き込みもされています。

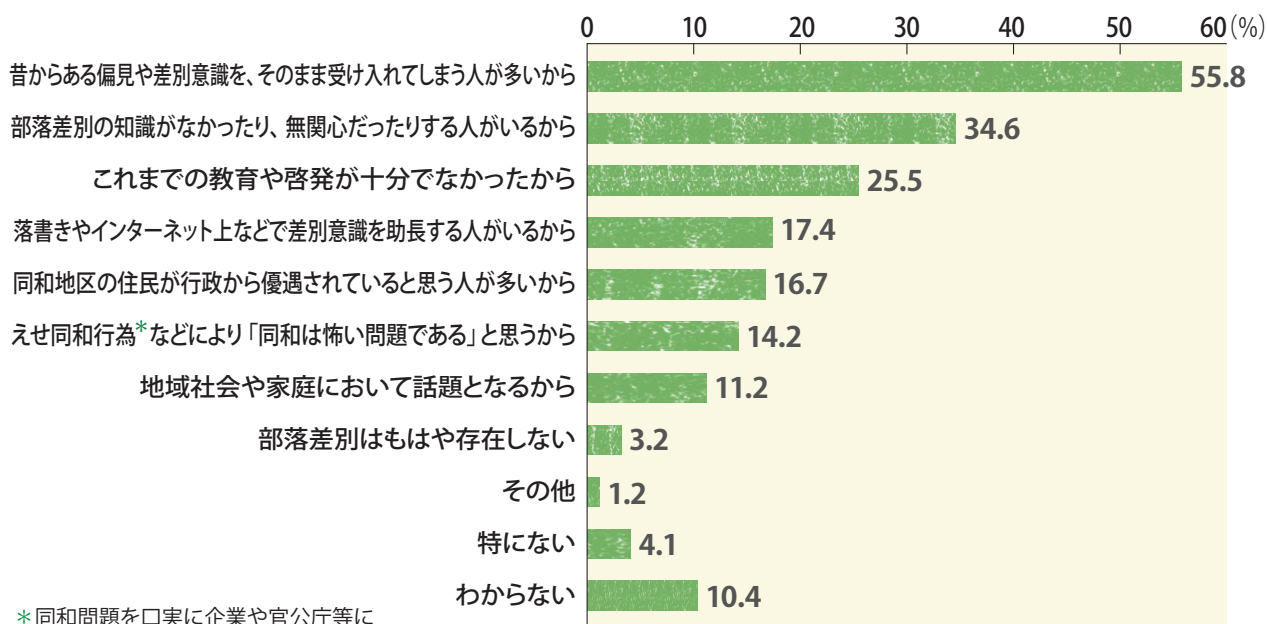
インターネット上の差別的な表現には抗議して削除することもできますが、一旦ネットで拡散してしまうと次々とコピーが繰り返されてすべて削除することは困難です。インターネットを使った差別事件を防止するには、人権という観点からの教育・啓発をより一層進めることが重要です。

同和問題の解決には、正しい知識を持つことが重要です。しかし、頭の中では分かっている、いざ身近なこととなると、世間体などを理由にして正しい

判断ができなくなるのでは、本当の意味で人権意識が身についているとはいえません。「悪いとはわかっている、他の人たちがそうしているから」ということなかれ主義は、差別を助長することにつながります。

## なぜ部落差別が残っているのか

● 部落差別が存在する理由 ※部落差別等の同和問題を「知っている」とする者に、複数回答



\* 同和問題を口実に企業や官公庁等に不当な要求をする行為

出典：内閣府「人権擁護に関する世論調査」2017

誰もが「悪いこと」と理解できる部落差別が、なぜ今も残っているのでしょうか。

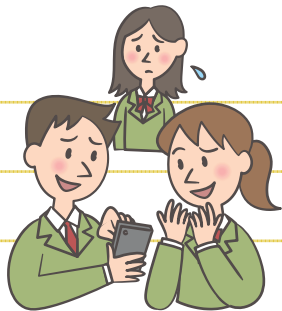
内閣府の世論調査によれば、部落差別が存在する理由として、「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」が55.8%と最も多く、次いで「部落差別の知識がなかったり、無関心だったりする人がいるから」が34.6%、「これまでの教育や啓発が十分でなかったから」が25.5%となっています。

この結果を見ると、部落差別がなぜ存在するのかを理解しないで、昔からの偏見をそのまま疑問を抱かず信じてしまっていることや、また、知識の無さや無関心も部落差別を助長していることがわかります。

# 当事者の経験談

## 経験談①

高校で友だちになった子たちと出身中学校や出身地の話題で話しが盛り上がった時、一人の生徒が「〇〇は部落」と突然、言い始めた。「〇〇は部落」と発言した生徒は、インターネット上に掲載されていた被差別部落の一覧表を見た友だちから市内の部落はどこかという話を教えてもらい、このような発言をしたらしい。〇〇に住んでいる人がこの場にいたら、どんな気持ちになっただろう。また、きっと、自分が知らないだけで、他の高校生の中にも同じようなことをしている人がいると思う。(10代 学生)



差別的な言動に気づかなかつたりすることはないでしょうか。  
「友達が言っていたから」「インターネットに載っていたから」  
ということで、疑いなく信じてしまうことはないでしょうか。

## 経験談②

私は一人の男性と交際をしている。私の家族は彼のことを「いい人だ」と褒めていたが、父親は彼の出身地を知るなり、インターネットで彼の出身地を検索しはじめ、被差別部落の一覧表に彼の出身地を見つけた。すると突然「彼とは別れなさい」と言い出し、部落の出身であることを理由に結婚を反対してきた。突然のことに驚くとともに、自分の親が部落差別をするなんて思ってもいなかった。(20代 会社員)

あなたは、家柄などで人を好きになったり、  
嫌いになったりしますか？  
子どもの幸せを願うのであれば  
大切なのは、何でしょうか。

